



●尾瀬プロジェクト

2003年度～2004年度に行った至仏山環境共生推進計画調査結果に基づき、ぜい弱な土地を避けるための登山道の付け替えや過剰利用を防ぐための入山者制御を含む「至仏山保全基本計画」を作成しました。また、日光国立公園・尾瀬地域の公園計画改定に対する課題や改善点を検討しました。

2006 活動レポート

2005年度の主な成果

**あなたのご寄付やご支援で
2005年度、NACS-Jは
全国でこのような自然保護活動ができました！**

●自然しらべ2005

2005年は、「10年目の川」をテーマに、企業協賛（㈱サニクリーン）をいただいて実施。のべ1619名、822地点の情報が寄せられました。10年前と比べると、総合点や水の汚れでは改善が見られましたが、一方でとてもきれいな川の減少が気になりました。



●市民参加の海岸植物群落調査

2005年度までに約1000人が調査に参加し、全国750カ所の海岸の調査結果が集まりました。3年目の今年は調査最終年。引き続き調査研修会を開催し、今年度後半、全国の調査結果を集計し、日本の海岸の自然環境の現況を明らかにします。



●市民参加の里やま保全

身近な自然のモニタリング調査方法の研究を市民と専門家が協力して行っています。2005年度はこれまで検討してきた調査手法をまとめた冊子「身近な自然を見つめる目」を作成し、茨城県の穴塚の里山での試行調査の結果を公表するシンポジウムを開催。また、人と自然のふれあい調査手法の検討も進めています。

●AKAYAプロジェクト

群馬・新潟県境にある、「緑の回廊」を含む赤谷川上流域の国有林「赤谷の森」を、地域住民・林野庁とのパートナーシップによる地域環境管理のモデルとして管理しています。2005年度は1万haの森の調査研究を進めるとともに、森の修復を戦略的に進めるための森林計画の策定を行いました。



●ホームページ、パンフレット発行

2年ぶりにホームページをリニューアル。改訂は使い勝手とセキュリティ強化に力点をおき、会員専用ページのコンテンツも増やしました。また緊急に保護活動に必要な資金の寄付を求めるパンフレットを作成し、ご支援を求めました。

●小笠原諸島の保全

固有な生態系を永続的に保全していく仕組みづくりを目指す小笠原プロジェクトでは、地元NGOと関係機関に対し、地域環境管理の総合的な調整機関の設置を企画・提案しました。また南島では小笠原諸島に固有の生態系の保全と適正な利用のあり方を検討するため「小笠原村南島モニタリング調査」を実施。気象、植生、海鳥、クマネズミ、陸産貝類、昆虫、微地形変化、利用状況の調査を行いました。



●NACS-J自然観察指導員

養成講習会を18回開催、1013名の新指導員が誕生。自治体・企業・学校・指導員連絡会と共催団体も幅が広がってきました。環境教育推進法もでき、高まるニーズに応えるためフォローアップも強化。研修会6回、メルマガ発行、ホームページ専用コーナー設置、「第7回指導員全国大会」も開催しました。



●プロ・ナトゥーラ・ファンド

(財)自然保護助成基金との共同事業として、第14期(2003年度)の助成成果をまとめた報告書を発行。第15期(2004年度)の助成成果発表会を東京で開催し、150人以上の参加がありました。また第16期は国内助成で17の自然保護グループと、海外助成で7人に合計2500万円の資金援助を行いました。

●野生生物基本法・関係法制度改正への働きかけ

市民提案による野生生物保護基本法の制定、関係法案の改正に向けて国会議員などへの働きかけを行っています。鳥獣保護法改正にむけ「野生生物保護法制定をめざす全国ネットワーク」として緊急集会を開催。環境省に野生鳥獣の科学的な保全管理のための制度を提案しました。



●国際的な自然保護活動への参画

IUCN(国際自然保護連合)日本委員会の事務局を運営しています。2005年度は「第5回東アジア保護地域会議」、「IUCN国内・地域委員会会合」に出席し、日本の発表を行いました。生物多様性保全に関する国際的な動向についての情報収集、国内の自然保護活動への情報提供を継続して行っています。

●河川生態系の保全

熊本県の川辺川では、地域グループによる九折瀬(つづらせ)洞窟コウモリ調査やクマタカ繁殖状況調査への協力とダム事業のモニタリングを継続。長良川では、河口堰運用10年の環境変化を明らかにするための企画を立案し、取り組みを開始しました。北海道の天塩川(てしおがわ)流域にあるサンルダム計画について現地視察をし、計画見直しを求める取り組みを開始しました。



●リアルネイチャー・セミナー／キャンプ

セミナーは「自然を守る仕事に就きたい学生」「CSRや社会貢献で生物多様性保全に取り組みたい企業」に向けて実施。会員拡大と同時に企業との協力関係の開拓にも役立ちました。また赤谷プロジェクトの現場の自然を体験するキャンプでは、会員の方々や協賛企業の方々にも、これまでのご支援の成果をご覧いただきました。



●辺野古・大浦湾海域の保全

沖縄島辺野古(へのご)・嘉陽(かよう)で、市民参加による海草藻場モニタリング調査「ジャングサウォッチ」と調査の人材養成として研修会を開催。普天間飛行場移設計画が、陸地をまたぎ大浦湾にせり出す案に変更されたため、緊急で大浦湾の現地調査を行い、計画の見直しとこの海域の保全を繰り返して求めています。



●泡瀬干潟の保全

2年間にわたる泡瀬干潟自然環境調査結果を「うまなちゅめ宝*泡瀬干潟の自然ガイドブック」にとりまとめ、公表しました。沖縄では泡瀬干潟の自然の重要性を多くの市民に伝え、泡瀬干潟の自然を生かした地域づくりを考えるシンポジウムを開催。この調査結果に基づき、事業の見直しと干潟の保全を求めて働きかけ続けます。



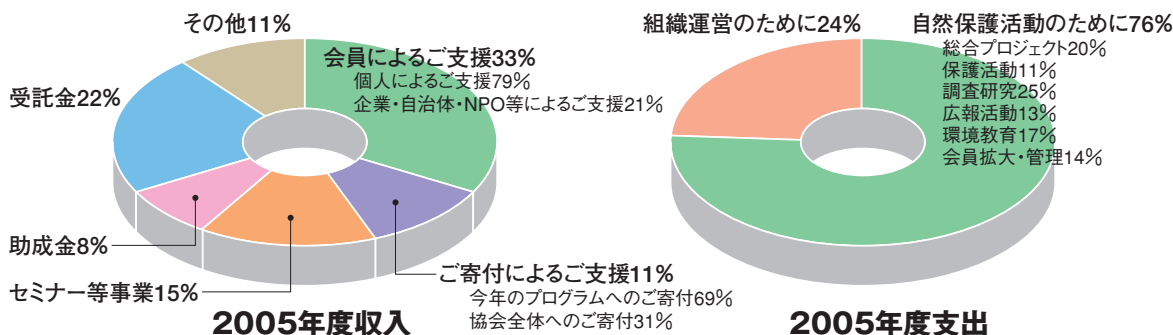
●綾の照葉樹林プロジェクト

宮崎県綾町に広がる約1万haの国有林、県有林、町有林をフィールドにNACS-Jを含む官民5者が協定を結び、人工林から自然林を保護・復元していくための連携会議が立ち上がりました。保護林をつなぐ「緑の回廊新設」を設定委員会の中で検討し、NACS-Jは復元のための基礎情報となる自然林、人工林、二次林に調査枠を設置し、植生調査や環境測定を行いました。

NACS-J 収支決算レポート (2005年4月1日～2006年3月31日)

NACS-Jの活動の財政基盤は、半分近くが会費とご寄付に支えられています。
それらをもとに、年支出の約8割を自然保護活動に、約2割を組織の運営に役立たせていただいています。

●2005年度の収入・支出割合



●2005年度決算と2006年度予算

(単位：千円)

地域に根ざしたNACS-Jらしい自然保護活動を進めるために、より幅広い支援の獲得、事業テーマに見合った資金源の確保、収入状況に合わせた効果的な支出などにより安定した財政基盤づくりを心がけ、収支均衡予算を基本としています。2005年度は、約2億8700万円の収入に対し、約2億7000万円の支出があり、約1700万円のプラスとなりました（このプラスは次年度に繰り越されます）。

また、NACS-Jの活動は、専門的なノウハウや所有の施設などを無償あるいは安価でご提供くださる、現地でしか分からない貴重な情報を寄せてくださる、アクションサポーターとして活動をお手伝いくださるなど、会計報告には表れないさまざまな力強いご支援に支えられてこそ、予算規模以上の取り組みができています。なお、決算および予算の詳細は、ホームページをご覧ください。

科 目	2005予算	2005決算	2006予算	※1
当期収入合計	274,200	287,300	277,500	※2
会費収入	102,400	95,000	99,500	
寄付金収入	38,500	31,900	40,500	
事業収入	49,500	41,700	42,400	
助成金収入	39,000	23,000	14,500	
受託金収入	40,500	62,700	74,500	
特定預金取崩ほか	4,300	33,000	6,100	※3
当期支出合計	274,200	270,200	277,500	※2
総合プロジェクト事業費	36,600	42,100	48,900	※4
保護活動費	31,400	19,800	22,700	※4
調査研究費	56,300	52,500	62,200	※4
広報事業費	32,800	27,500	36,800	
環境教育事業費	39,100	35,000	34,600	
会員事業費	31,600	29,600	33,100	
管理費ほか	46,400	63,700	39,200	※3

(2006年3月29日理事会にて2006年度事業計画・予算議決、2006年5月29日理事会にて2005年度事業報告・決算承認)

※1 2005年度予算は、当初予算額を表していますが、2006年3月3日に予算の一部補正を行いました。

※2 固定資産の運用変更などにかかわる収支の動きは除きました。

※3 2005年度は、特定預金を活用して事務局オフィスの移転を行ったため、例年より当該科目の金額が増加しています。

※4 総合プロジェクト事業費、保護活動費、調査研究費には、それぞれ受託事業費が含まれています。

なお、受託事業費の合計は、受託金収入と同額です。

NACS-Jの経営・運営に取り組む新メンバーです。 —理事・監事・評議員が改選されました。

理事長■田畑貞寿(千葉大学名誉教授) 専務理事■大澤雅彦(東京大学大学院教授) 理事■阿部治(立教大学教授)／有賀祐勝(東京水産大学名誉教授)／安藤伸良／大森博雄(東京大学大学院教授)／小野有五(北海道大学大学院教授)／亀山章(東京農工大学教授)／須磨佳津江(キャスター・ジャーナリスト)／中村俊彦(千葉県立中央博物館副館長)／羽山伸一(日本獣医生命科学大学助教授)／原慶太郎(東京情報大学教授)／原剛(早稲田大学大学院教授)／水野憲一(TVEジャパン専務理事)／村上哲生(名古屋女子大学教授)／村杉幸子／横山隆一(NACS-J常勤)／吉田正人(江戸川大学教授)／鷺谷いつみ(東京大学大学院教授) 監事■鹿野久男((財)休暇村協会常務理事) 評議員■石井実(大阪府立大学大学院教授)／岩槻邦男(兵庫県立人と自然の博物館館長)／大熊孝(新潟大学教授)／岡本寛志((財)自然保護助成基金専務理事)／尾崎清明((財)山階鳥類研究所標識研究室長)／小野幹雄(東京都立大学名誉教授)／親泊素子(江戸川大学教授)／川北秀人(人と組織と地球のための国際研究所代表者)／川那部浩哉(滋賀県立琵琶湖博物館館長)／北元均(朝日新聞社出版本部)／鬼頭秀一(東京大学大学院教授)／小泉武栄(東京学芸大学教授)／小林光((財)自然環境研究センター副理事長)／佐久間憲生(出羽三山の自然を守る会理事長)／進士五十八(東京農業大学教授)／鈴木秀雄(関東学院大学教授)／諏訪雄三(共同通信社記者)／関根孝道(関西学院大学教授・弁護士)／瀬田信哉((財)国立公園協合理事長)／土居秀夫(株)平凡社編集局)／中静透(東北大学教授)／藤原正寛(東京大学大学院教授)／牧田英彦(設計コンサルタント会社代表)／三島勇(読売新聞社科学部次長) 顧問■大井道夫／奥富清((財)自然保護助成基金理事長)／小原秀雄(女子栄養大学名誉教授)／金田平／柴田敏隆(敬称略)

(2006年5月29日 現在)

ありがとうございました
＊
2005年度寄付サポーター
935人
総額3186万2680円

講座、遠藤隆彦、合会合社狼森、大分自然保護連、大分県大会、大久保正、大久保大章、大久保大孝、大久保大男、大久保地域センター、富田建設業会、大坂行、大坂幸枝、大崎玄、大澤純一、大澤秀行、大澤ひと子、大澤雅彦、大島渡江、大島啓盛、大城正子、大塚正、大田慶子、大谷多恵子、大谷敏治、大塚宏祐、大塚美智子、大塚康信、大西傳之助、大西史男、大野佐知子、大原長矢、大和田三子、大田一美、大山恭子、大山雅司、大和明子、岡耕一、岡陽子、岡崎権太、岡崎学、岡田彰、岡田良子、岡野弘明、小川俊一、小本哲、(佛)神田環、神田治作、小川俊一、小本哲、(佛)神田環、神田研究所、奥多摩自然観察倶楽部、奥野環、奥山好美、小栗幸雄、小倉敏子、小倉久子、小倉哲二、小栗幸雄、尾坂知江子、小山内司、小澤俊樹、尾関雅章、小田邦矩、喜多博英、小野原、小野知洋、小見寺公一、小田徳彦、小原孝、小田恒夫、小野寺公一、オムロ(佛)親皇親王、小田祐一、開榮法子、加瀬正子、加瀬まさみ、加瀬悠子、加瀬幸子、加藤幸治、加藤佳器、門脇太郎、金井幸子、金原亜希子、金森貞次、山田陽子、可児市立中学校、金子久子、金城美代、金田正、金田正人、狩野裕子、神岡勝美、上沢恵平、上園光子、上平裕子、神谷明彦、神谷司、矢津、神谷有一、神山和智、亀井弘和、唐沢良子、羽谷雅介、亀田智彦、鴨下知子、唐沢良子、羽谷雅介、亀田明宣、川崎正勝、川崎雄一、川崎雅子、河崎行香、川崎正勝、河添孝三、川田三郎、川田真紀、川田浩哉、川西衣実美、川原昭三、川辺中学校、河本正徳、川岡田裕、NPO法人環境アール・エ研究機構、NPO法人環境アール・エ研究機構、NPO法人環境アール・エ研究機構、NPO法人環、環境を創る日立市、NPO法人環、神林敦子、木内聖子、菊池田、菊池修一郎、菊地真幸、菊地幹夫、岸勉、木田進、木嶋孝子、岸本照子、木田秀幸、北野信久、吉川久子、キック佐助、木原忠男、木原泰文、久保久樹、木村晟、木村嘉子、木村良佳、木村知子、木村直代、木村光治、木村良昭、木村善保、清沢仁子、清田秀雄、桐原三弥、草柳誠、瀬川厚子、櫛野美子、橋見原、工藤勝政、工藤民雄、工藤泰恵、工藤ゆみ子、久保敏子、久保田有、熊比保、熊崎勇、熊代昌一、クニツリス、スミベ、栗林淳子、クルプル、21、黒田厚子、黒沢子、(有)クロフヤイト、(有)Gage、黒田長久、源河明彦、劍持裕美、小泉雄子、鴻上謙之助、郷田昌義、幸田辰雄、光田道雄、

明美、竹田喜郎、武田由紀夫、竹内利子、竹口千代、竹田育郎、武内恭子、竹村真美、竹浪純、武野枝、村原奈史夫、竹村真美、多胡則之、田島清利、田嶋聰之、田島由香里、立花友美、橋正治、立岡英宏、田中郁子、田中克正、田中正二、田中辰吉、田中五枝子、田邊和子、田邊光彰、棚谷直広、谷川由枝子、谷口浩一、谷村和彰、田畑浩清、田村淳、田村泰彦、段原鈴子、近澤清、松本良雄、茅野純、一寸木肇、塚原陸子、知念明美、佃純夫、つばきは市立竹園東中学校、津坂幸三郎、辻井定彦、土田勝義、土屋隆信、土屋俊幸、土屋尚、筒井和光、堤康雄、角田麗子、照屋良子、(例電通ハヤシクリクレイション、佐法蘭騎、土井敏敦、東京リサイクル運動市民の会、(例栄達、道正健太郎、藤平量郎、時田民男、時田恵、得永好子、富岡良之、豊田市立美里中学校、虎谷健、富岡進、鳥山由子、内藤謙一、内藤よし、胡長池卓男、中鍵貴之、中川キヨ子、中川健、川村春美、長久保あかね、中島小夜子、中島政博、永田健三、田中朋子、中田順士、中田浩輔、長谷はる、中谷眞砂子、中塚孝一、中野和子、中野喜和、中清宗一、中村和子、中村和子、中村俊治、中村麻子、中村雄二、中村征子、中村實史、長柄雅太郎、名執眞義、名執義高、成富はほみ、難波大志、名執彰彰、実行委員会、奈良女子大学、新嘉烈立新発田商業高等学校、(例みひび、新倉毅、新村貞男、(例二二二、西内洋一、西野市立西春中学校、西田允保、西野い子、西野町立西春中学校、西村照雄、西村秀樹、西脇留治、新田由美子、二宮早由子、二瓶孝子、二村一男、沼田慶治、(例ネイチヤケム／ライトボリントン、根岸邦宏、野川和子、野田和年、野原明子、野原文江、野原由美子、野村昌子、箱崎／土工業、(例間、(例男、橋幸子、橋通彦、橋合博子、橋本清、橋本恵治、橋本哲雄、橋本貞子、長川花佐子、島山英夫、八角敏、服部マコ、田代英佑雄、羽田義仁、馬場敬子、馬場良子、パブリックリソースセンター、浜井玲子、早川郁夫、林高士、林信夫、林田文子、原田幸子、茨田弘美、原田昌夫、香山房子、ピーエルオパシース、(例東田行弘、樋口星路、久徳照、久光幸子、日向朗、日野口、日比野久一、姫田浩代、冷水利子、日吉健治、平尾秀夫、平田亮紀、平山ひろ子、平山政昭、廣瀬潮子、基金調査会、(例フェリス、フェリスモンス、基金事務局、深沢敬、深津卓也、深見弘、吹上博、福井尚二、福岡和子、福岡明、福岡敦、福岡重美、福田信子、福田まゆ、福田賢子、藤本圭史、藤井祐二、藤井石治、藤本順子、藤沢浩

27 自然保護 JUL. / AUG. 2006 No.492